

『宇宙と私』

二年 一組

三十二番

前澤

光映

私は中学二年生の学生で、毎日学校に通っています。学校が終わった後は、クラブ活動をし、毎週火曜日はピアノを習い、月木土曜日は塾があります。毎日がすごく忙しいのにテスト前になると、「勉強しろ」と言われ、忙しさはマッワスになります。こういう忙しい日々を過ごしているとき、時にはクラブ活動のことで悩んだり、勉強のことでイラついたり、落ちこんだりすることもあります。そんな時、私は星を見たり、宇宙のことを考えることがあります。例えば、太陽は燃え続けていくけれど、いったいつから燃えているんだろう、明日太陽が燃えつきて、消えてしまったら、世界はどうなるんだろう、宇宙は無限に続いているのだろうか。宇宙はどのようにやって、いつごろ出来たのだろうか。考えれば考える程、疑問が次々にうかんできます。宇宙は不思議なことだらけなのです。それを調べ

るために、人類はロケットを打ち上げたり、
賢い学者さん達が研究をしたり、それでも宇
宙は謎だらけです。

私の悩んでいた事や、落ちこんでいた事を
宇宙規模で考えると、地球上の一匹のアリが
朝ご飯を食べ忘れたぐらいのちっほけな、大
したことのない出来事のように思えて、何だ
か悩んでいたのがバカらしくなり、元気にな
れます。

星を見るのも、すごく心が落ち着きます。

昔の人が、星の形に名前をつけて、星座にし
ましたが、それが今でも引き継がれています。
これを言いかえると、昔見ていた星の形を今
も変わらず見ることができるとてもすばら
しいことだと思えます。私は、宇宙や星のこ
とを考えるのが大好きです。

小学生だった頃、プラネタリウムに行った
ことがありません。星座の説明だけでなく、そ
れにまつわるギリシア神話まで聞くことがで
き、本物の夜空を見ているようでとても感動

した記憶があります。

私の家からはあのプラネタリウムで見た、
たくさんの星は見えません。町の電灯が明る
すぎるため、見える星の数も少なくなってい
るそうです。それがとても残念です。明かり
の少ない田舎の方では、すぐく星がきれいに
見える所があるそうです。いつかそういう場
所で、ゆっくりと星を眺めたいと願っていま
す。そして、宇宙の謎について、想像をふく
らませたいと思います。

宇宙は、私達がまだまだ知るよしもない、
多くの謎や神祕に満ちているのだから。